



なはセン通信

Vol. 52



なは市民活動支援センター
(那覇市市民文化振まちづくり協働推進課)
〒900-0004 那覇市銘町 2-3-1
なは市民協働プラザ 2 階
(2020 年 9 月発行)



2020 なは市民活動支援センター講座

NPO・市民活動オンライン活用！スタートアップ講座

新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的に、会議やワークショップなどはインターネットを活用したオンラインが主流となってきました。

慣れてしまえば簡単なのかもしれない操作も、最初から何もかも出来るわけではありません。

受講生の目的は「オンライン会議」や「オンラインワークショップの開催」と様々でしたが、これまで培ってきた活動を「コロナや技術の取得の問題で止めたくはない！」そういう思いが強く感じられます。

講座は全 7 回のうち、5 回目まで終了したところですが、既にオンラインを活用している団体の方からお話を伺う事ができましたので次ページでご紹介いたします。



相談事業ホームページ
<https://nahasen.info>

コロナ対応市民活動相談事業相談受付中!!

那覇市内の NPO・市民活動団体または新しく市民活動を行いたいと考えている市民を対象に、無料で専門相談を実施します。多様な分野の専門相談員が対応します。お気軽にご相談ください。

【期 間】 8 月 3 日～12 月 25 日 (土日祝日を除く)

【実施方法】 オンラインにて実施 (オンライン環境がない場合は対面相談も可能)

【受託事業者】 NPO 法人 まちなか研究所わくわく

TEL & FAX / 861-1469 E-mail / office@machiwaku.com



Funnichi
Cafe
～Fun日カフェ～

毎月第 4 金曜日に開催し、皆さまの交流の場として活用頂いてました

Fun 日カフェですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度いっぱいでは定例開催を中止する事となりました。

フード＆物資ドライブ (ご家庭で余っている食品や日用品の寄付) は常時受け付けております。

ご提供いただける食品や日用品がございましたら、センター窓口までお願い致します。





オンラインを活用する市民活動団体の紹介

ここで紹介する団体は、新型コロナウイルス感染症が発生する以前からオンラインに取り組まれています。皆さま、オンラインに関してはまだ発展途上の段階ということでしたが、現時点では利点のほうが多く感じられというお話をされていました。

真和志自治会長連絡協議会 ～ 無料通話アプリ「LINE」の活用 ～

定例会等についての連絡手段は1人ひとりへの電話掛けが主でしたが、昨年、自治会長の皆さんを対象にスマートフォン講座を実施した際に、割と普段からLINEを使っている方が多いという事を知りまして、協議会の連絡手段にLINEを取り入れてもいいのではないかと、田島会長に相談したところ快く了承して下さいました。

正直、月1回の定例会では時間が限られているため情報共有の場をなかなか設ける事が出来ないというジレンマもあったと思います。そうでなくても普段から忙しい自治会長の皆さんなので、効率よく情報を共有することが可能と思ひ、昨年の10月頃にLINEグループをつくりました。

協議会や各自治会の情報がタイムリーで入ってくるようになってますし、情報だけでなく意見交換も活発に行えるようになりました。もちろんLINEだけでは情報が届かない場合もありますので、これまでの電話掛けや文書と併用して情報共有しています。

このグループラインを作成した頃はコロナなど想定していなかったんですが、第1波の時には会長がマスクや消毒液の情報を発信したり、第2波で全体の気分が落ち込みかけていた頃には、おもしろ動画を共有してくださる自治会長がいらっしゃったりで、コロナ禍でもコミュニケーションが取れて良かったと思います。



真和志自治会長連絡協議会
西平 博人 副会長

三原区自治会 ～ 自治会公式ホームページの運営 ～

(会長) 掲示板やだよりで住民に情報提供していましたが、三原は広くてですね、掲示板を一つ一つ回るのもなかなか骨の折れる作業です。実は、数年前から公式ホームページの構想を考えていましたが、何から手をつけたらいいのかわからなかった。そんな事を役員に打ち明けたら城間さん自ら手を挙げてくれて提案とかもいただきました。

(城間さん) 予算もないため、お金をかけてホームページを作るのはリスクがあるので、ホームページを低料金で作成できるサービスを利用して、写真などの素材はあるものを使いました。あとは簡単に更新が出来る仕組みで慣れれば会長でも誰でも更新できるようにしています。

自治会だよりも作成していますが載せるほどの事でもないような、コラムや自治会がやっている事を情報発信しています。恥ずかしいけれど「自治会が何をしているのかわからない」と言われるともっと発信しなければならない...でも、紙媒体では限りがあります。ホームページは何時でもどこからでも誰でも見る事ができるので、元々の住人、引っ越してきた住人、進学や就職で三原を離れたとしても三原の情報を見ることが出来るというのが大きいですね。

若い人が地元に興味を持ってもらえるようにするために、我々も新しいことにチャレンジしていきます。(公式サイト → <https://nahashimiharaku.wixsite.com/miharakujichikai>)



三原区自治会
島袋 浩明 会長・城間 美咲 さん

宮城区自治会 ～ 無料通話アプリ「LINE」の活用 ～

自治会のライングループを作ったのは1年くらい前かな？自治会の情報を共有するのに掲示板や電話掛けを活用していますが、この作業に時間を取られてしまって本来の活動や仕事に負担がかかってしまう。働き盛りの方は忙しいですから、それを解消するにはとても良いサービスだと思っています。情報の発信も、情報を見るのもそれぞれの都合の良いタイミングで出来る。何より無料なので個人の負担がない。もちろん、情報発信を全て一気にLINEに切り替えたわけではなくこれまで通りの方法と併用していかないといけませんね。

自治会としてLINEを使う最大のメリットは、簡単にその場で情報を発信できるので、何か公民館で作業をしている最中に写真を載せると「30分くらいなら手伝える」という人が顔を出してくれたり、例えば朝から開催予定だった草刈作業を台風で急遽中止とするとした時はすぐに案内ができます。あとは自治会ならではかもしれませんが告別式の案内とかも載せることが出来ます。

今は役員だけからの発信になっていますが、投稿する時間や内容のことである程度ルールを作って、住民からの発信もできるようにしたいし、宮城区自治会のオリジナルスタンプも作りましたので、こういった事を活用してまだこれから、住民と繋がっていききたいですね。



宮城区自治会
高山 邦夫 副会長





「知らないことは人に聞け」

を、モットーに過ごしてきたわたくし…

自分で調べると、

情報から出られなくなってしまうんです。

ですから、教えてください…

シリーズ第15弾

「何をしているトコですかっ？」



なは市民活動支援センター
2階支援事務室偏

沖縄教育カウンセラー協会

—「沖縄教育カウンセラー協会」とはどういった団体ですか？

スクールカウンセラーの養成を主に行っておりますが、要資格者だけでなく、教員、支援員など教育に携わる方や保護者の方など、これから携わろうと考えている方も協会の会員で、現在は約250名が在席してらっしゃいます。

一般的にカウンセリングというと、心理的な治療を目的としたことを思い浮かべる人が多いと思いますが、教育カウンセリングというのは「育てるカウンセリング」と言って【子ども達が持っている力を伸ばす】【問題を一緒に考えていく】という、保護者や先生とは別の視点で子ども達に寄り添うのが「育てるカウンセリング」です。

事業としてはカウンセラー養成講座やカウンセラー向けの講座、定例会などで情報交換を行って、会員の個々のレベルアップを図ると、子ども達への支援に厚みが出ます。会の存在の必要性が深まっていると実感しています。

—「沖縄教育カウンセラー協会」の目標を教えてください。

コロナ禍でも、子ども達の自己実現にむけて直接カウンセリングを実施できるようにしたいという事と、レベルアップのための講座をオンラインで実施するために、みんなでオンライン技術の取得に励んでいます。我々も子ども達に負けずに新しいことに挑戦していきます！



美ら島きこえ支援協会

—「美ら島きこえ支援協会」とはどういった団体ですか？

本会は「沖縄県難聴・中途失聴者協会」という任意団体で約25年間に渡り県内各地で活動してきました。2019年3月からNPO法人として活動体制を刷新し、聴覚に障がいを持つ方々に今の団体名に変わり、正会員、賛助会員が聴覚に障がいを持つ方たちの包括的なサポートを行っています。

実は、聴覚障がい者の多くは社会生活の中で「会話が聞こえにくい」事や「コミュニケーションが上手くいかない」という事が原因で深い自己嫌悪に陥る事があります。我々はそれらに対して傷ついた自尊心回復と当事者自らの課題解決の力を高める事を目的として、きこえの勉強会な開催や対面での相談対応、補聴器や情報支援機器を上手に使いこなすためのアドバイス等を積極的に行って、また、地域社会へ「聴覚障がいの特性の理解」を求める啓発情報発信に取り組んでいます。

—「美ら島きこえ支援協会」の目標を教えてください。

聴覚障がい者が生き生きと暮らせる地域社会を沖縄に誕生させることが目標です。その為に、まずは我々が「きこえのお悩み駆込み寺」の様な存在として認知され、気軽に相談して頂けるように、団体としての信頼と実績を積み上げていきたいですね。

また、外部団体の方に「機材の貸出し」も行っています。UDトーク（音声認識による字幕作成）や要約筆記、手話通訳のきこえの社会資源の啓発を皆さまとの「協働」で取り組んでいけたら幸いです。

当事者として、地域に寄り添う団体を目指して頑張っていきます！





助成金等情報

『公益社団法人 日本フィランソロピー協会/ JT SDGs 貢献プロジェクト』

内 容：1 法人 1 事業を対象とし上限 200 万円

助成対象：「格差是正」、「災害分野」、「環境保全」につながり、包摂的かつ持続可能な地域社会の発展に貢献する事業。

- ① 法人（営利/非営利等の法人格は問わない）
- ② 主たる事業所所在地と事業展開地が日本国内であること。
- ③ 法人の設立目的や活動内容が、政治、宗教、思想に偏っていないこと。
- ④ 反社会的勢力でないこと、または反社会的勢力と交友関係を有する法人でないこと。

【お問合せ】JT SDGs 貢献プロジェクト外部事務局

URL <https://www.philanthropy.or.jp/jt/>

『日本郵便株式会社/ 日本郵便年賀寄付金』

募集期間：2020 年 11 月 6 日（金）当日消印有効

内 容：169 団体（配分総額 296,431,000 円）

対象活動：社会福祉の増進、青少年健全育成のための社会教育、地球環境の保全、交通事故・水難の救助・防止
健康増進のためのスポーツ推進継続している活動、開発途上地域からの留学生・研修生の援護
風水害・震災時・非常災害時の救助・災害の予防、原子爆弾の被爆者への治療・援助
がん・結核・小児まひなどの研究・治療・予防、文化財の保護

【お問合せ】日本郵便株式会社 総務部 年賀寄付金事務局 TEL:03-3477-0567

URL <https://www.post.japanpost.jp/kifu/>

※最新の情報や詳細は、各お問合せ先の応募要項を必ずご確認ください。

感染症拡大予防ガイドラインにより、収容人数は表示人数の概ね半分程度とされています

会議室 料金一覧表

会議室①	84 人	¥1,300/1h	¥400/1h
会議室②	36 人	¥650/1h	¥200/1h
会議室③	45 人	¥650/1h	¥200/1h
会議室④	18 人	¥200/1h	¥100/1h
会議室⑤	15 人	¥200/1h	¥100/1h
会議室⑥	15 人	¥200/1h	¥100/1h
会議室⑦	12 人	¥200/1h	¥100/1h
会議室⑧	24 人	¥250/1h	¥100/1h
研修室①（和室）	16 人	¥200/1h	¥100/1h
研修室②	17 人	¥200/1h	¥100/1h

印刷機 使用料

白黒・A3 サイズ以下	¥1/枚
カラー・A3 サイズ以下	¥4/枚

※内容確認のため、原則として印刷物の一部提出をお願いしております。
※印刷用の用紙もお持ちください。
※USB 等のメディアからは直接印刷はできません。



駐車料金	☆基本料金	
	最初の 1 時間まで	300 円
	最初の 1 時間を超え 30 分ごとに	100 円
	☆市民活動目的の場合（減額適用）	
	最初の 2 時間まで	100 円
	最初の 2 時間を超え 1 時間ごとに	100 円

2020 年 3 月より、なは市民協働プラザの駐車場は有料となりました。

お問合わせ なは市民活動支援センター

〒900-0004

那覇市銘苅 2-3-1 なは市民協働プラザ 2 階

TEL：098-861-5024 / FAX：098-861-5029

メール：C-KATU005@city.naha.lg.jp

